

随想

今の日本の若い世代

〈グローバル新時代の中の日本を見る〉

加藤 宏光

先日知人からメールをもらった。一橋大学の竹内弘高教授による《グローバル新時代の価値創造》という講演の印象についてである。

内容を簡単に紹介しよう。グローバル新時代において日本の地位が極端に落ちている。かつてはアジアからは日本人ばかりが留学していたハーバードのビジネススクールでは、今では中国、韓国からの留学生のみである。その大学長はインド人で、アメリカ人以外で初めてとのこと。

インドでナノという超低価格車が評判となっているが、開発

者はずぶ濡れになりながらスクーターで走っている家族を見て、「二、〇〇〇ドルで家用車を買えたら皆雨に濡れないで済むだろう」と考えたのが動機とか。

たびたび訪日するハーバードの学生の興味の対象は《ポケモンの生まれたところへの興味である》との答えが多いという。子供のころポケモンで育った若者が今の大学生ということになる。日本という国に対する価値観が変わってきているのかもしれない。

技術の面では未だにアメリカで特許をとっている企業の多くは日本企業が占める。それなり

に頑張っているが、個人のパワー不足が将来を危惧させる。

東京大学が世界のトップ一〇〇で九九位、日本への留学生の九〇%が日本企業に就職することからは、優秀な学生を囲い込みたいという日本企業の本音が見える。

企業は世のため人のために存在する。倫理やモラルに裏付けられた共通の思想・哲学を伝えるのがトップの仕事。

今こそという現実を変わり続けるダイナミックな文脈に捉え、未来のより良いものを求め、その時、その場で最善の判断と行動を起こす。

今の新入社員は所謂、ゆとり教育の中で育ってきた世代で、競争意識が薄いと感じるが素直な子が多いというのも特徴的である。確かに最近の若い世代を考えると、然りと思えるところが多い。

先月(五月)に鶏病のなかでも難解な持続性感染症の情報収集にオランダとデンマークへ出かけた。第一の目的地コペンハーゲン大学で鶏病病理を専門とするポヤーセン助教授と面談した。情報交換の結果は極めて有益であった。その折、夜に彼のホームパーティーへ招かれた(実はこの面談途中でアイスランドの

火山爆発が勃発したのだが、著者は何が起きたのかまったく知らなかった)。

彼は事前のメールで彼の一四歳になる長女・アマンドがアニメにハマっているとの話題を提示してくれた。この情報をもとに、彼女への手土産として《武士道シックスティーン》というコミックを一冊、《もののけ姫》というアニメ・DVDを一枚持参することにしたのである。

手土産の漫画本は一〇冊余りのシリーズらしく、全部を持参するわけにもゆかぬため、第一巻のみを買い求めた。しかし何も知らぬままに「土産です」と手渡すのもいかなものかと思ひ、この原作を文庫本で購入して、道中の機内で通読していた。

ストーリーは青春少女ものである。二人の対極的性格の少女が剣道を通じて友情を育て、また成長してゆく、といったもので、著者好みのストーリー展開で予想外に楽しめた。

その中で、迷える番長の少女に剣道具を売るなじみの大人が

武士道とは何かを語る節がある。そこで、武士道を次のように述べていた。

武士道とは、

- 1) 社会に迷惑をかけないこと
- 2) 生涯を通じて自己を研磨すること
- 3) それを通じて、社会に役立つ人格を形成すること

文庫本を読んで、著者はユーモアの中にことを読者に伝えたのであると感じた。

ボヤーン博士に伴われて自宅へ伺うと、迎えに出たアマンドは身長一七〇センチを超える長身の可愛い娘さんで、いかにも美しく育つだろうと思わされた。

博士の奥様、アマンド、二女と長男にわれわれ夫婦でテーブルを囲み旨いワインと手料理を楽しんだ後、漫画本の話になった。なにせ日本語であるから、彼女に読めるわけもない。彼女は英語訳された各種の漫画本コレクションの入った書棚を見せてくれた。持参した本に興味を

示すと共に同じく手渡した文庫本を自分で読めるようになりたし、と目を輝かせて語る。

そこで著者はこの文庫本のストーリーの概略を短くつまんで解説すると共に、先の《武士道とは》という三項目を語って聞かせた。

一四歳の少女、アマンドは著者の話を聞いて著者に話した。

「それって人間として当たり前のことですよネ!!」

彼女はジャパニーズ・アニメをおして日本の文化を学びたいそうである。

アニメをおして世界中の少年少女がわが国に興味を持ち、わが国を訪れそして日本人の気付かない《日本文化》を自分の国の文化と同化してゆく未来。そんな夢を見せてくれる少女の一四歳とは思えない意見に、「わが国の少年・少女に語りかけたらどのような反応を示すのだろうか：」と思わされたものであった。